

IV 社会 1年次の成果と課題

1 成果

(1) 複数の資料を比較して考える「学びのものさし」の効果的な活用の工夫

1年次の研究としては、社会科の学習の根幹となる資料の扱い方・読み取り方に焦点を当てた。特に、複数の資料を比較する活動を設定することによって、そこから共通点や相違点が浮かび上がり、課題が形成され、さらに様々な視点からの比較・検討による話し合いによって課題の解決に向かっていくという学習過程を意識した授業づくりに取り組んだ。さらに、資料は教師が与えたものだけではなく、子どもたち自らが足で探した資料や友達が調べたものを比較・検討する過程を仕組むことによってより課題が明確になり、解決への見通しや意欲にもつながった。そしてさらには課題の解決につながる複数の資料提示を視覚的にもインパクトのある形で行い、思考させていく。

複数の資料やそこから得られた根拠を比較・検討することは子どもたちにとって「学びのものさし」を自覚する手立てとなり、課題追究のために必要な資料を選択し、視点を変えて学ぼうとする姿や仲間との情報交換に必要感をもって臨む姿など主体的に調べたり考察したりする姿が見られたことが成果である。単元を通して個での学習課題の追究と集団での情報交換の往還がなされ、社会的事象の特色や意味について多角的に考えることにつながった。

(2) 社会的事象の特色や意味を見いだすための様々な比較の視点を生かした根拠のある話し合い

情報交換の場を中心とした思考の手段として、話し合いを支える比較の視点を意識的に複数扱った。また、話し合いの中で、一つの比較からの根拠に対し、自己と他者の資料の比較や地図の俯瞰と焦点化からの比較等から共通点や相違点を意識しながら根拠をもって説明できるような見方・考え方を意識的に扱った。これらの手立てにより、資料をどのような角度から見るのか、資料以外の何と比較して考えるのか、情報を交換し、課題解決のための糸口を見つけ出す見方・考え方を具体化し、「学びのものさし」として自覚できていたのではないかと考えられる。

地域ごとの特徴や、様々な視点と視点を比較して考えることは、各地域を特徴付けている事象の理由を地図や資料を基に類推して子どもたちなりに話し合う活動を通して、比較したり関連付けたり総合したりして考えるために有効であったと考えられる。

2 課題 考えをつなぎ、深め合っていく過程を大切にしたい授業構想

資料を基に考えをもつことができたが、その根拠を的確に分かりやすく説明し、比較検討してまとめにつなげていく学習過程を工夫していくことが課題である。子どもたちの一人一人の学びをつなぎ、少しずつ明らかになっていく過程を楽しめるような話し合いとなるよう、どの場面で協働的な学びを取り入れるのか、個々による課題の設定をどうコーディネートするのか工夫し、子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ、考えを深める姿を引き出すための授業構想を模索したい。